

Wonderful Memory/Wonder-K

All songs written by Wonder-K

01. 夢の続きを

部屋の片隅に
積もる夢の残骸
どことなく寂しいから
捨てるに捨てらんないなあ

とはいえ最近
先の見えない時代だし
そんなことばかりを
考えてる余裕もない

忙しいこの街でちょっと
立ち止まってみようか
少しだけ 忘れたものを
思い出せるはずさ

この場所でもう一度
夢の続きを描きたい
遠回りで構わない
少しずつ カタチにしてく
果てしないこの空に
放つ僕の想いが
いつまでも消えないで
この世界に響くならいいな

低い天井を
見上げてずっと考えて
結局僕は「僕」でしか
いられないと気づいた

練り上げた偽りだって
すぐに剥がれてしまうよ
僕の中にある答えは
僕がよく知っていた

君とまたもう一度
夢の続きを描きたい
苦しさの中で ほら
少しずつ カタチにしてく
果てしないこの空に
放つ僕の願いが
いつまでも消えないで
この世界に響くならいいな

この場所でもう一度
夢の続きを描きたい
「無理だ」ってそう嘯いた
その言い訳を塗り潰せ

君とまたもう一度
夢の続きを描きたい
遠回りで構わない
少しずつ カタチにしてく
果てしないこの空に
放つ僕の想いが
いつまでも消えないで
この世界に響くならいいな

いつまでも響くならいいな

02. Daydream

君はか弱く揺れてた灯を
そっと吹き消して去って行った
僕は君のいないこの場所で
ただ一人立ち尽くしているんだ

記憶の中に在る
楽しそうに笑う二人の残像が
目の前の干からびた日々と
僕を呑み込んでく

消えてしまいそうな心で
淡い幻想に溺れてゆく
溢れ出したこの想いは
拭い去ることができない

きっと今になって僕は君の
いいとこばかり思い出したりして
何も出来ずにただ全てを
終わらせた自分を恨むんだ

時間は戻らなくて
後悔が容赦なく突き刺さっていく
押し寄せる記憶が視界を
そっと染め上げるよ

消えてしまいそうな心で
甘い絶望に浸ってゆく
溢れ出したこの涙は
拭い去ることができない

君のなくなった未来を
どうやって生きていけばいい？
溢れ出したこの涙は
拭い去れないままで…

消えてしまいそうな心で
淡い幻想に溺れてゆく
溢れ出したこの想いは
昨日よりずっと強くなってく

03. Cage

ひねくれた理性で
全てを否定したって
未だに燃えている
得体の知れぬ気持ち

気付かぬふりをした
だけど気付いていた
いつまでもこうして
いられないってことも

ただ自分を守るため
築いた檻の向こうで
君がまだ待っていた
そこにいてくれた

ただ自分を守るため
築いた檻の向こうに
広がる世界をもう一度
望んだ自分がいた

ただ現実が怖くて
閉じこもった暗がりでも
この眼は澄んだ青空に
まだ恋焦がれていた

消えない思いがいつだって
内側から僕を呼んだ
全てが終わってしまう前に
この場所から抜け出すんだ

消えない思いがいつだって
内側から僕を呼んだ
全てが終わってしまう前に
この場所から抜け出すんだ

癒えない傷もいつの日か
誇らしく思えるような
これからを刻んでゆくために
この場所から抜け出すんだ

癒えない傷もいつの日か
誇らしく思えるような
これからを刻んでゆくために
この場所から抜け出すんだ

果てしなく続く世界へ

04. Our Song

めぐってゆく季節を超えて
絶えず流れるメロディー
心澄まして 君を想えば
確かに聞こえてるんだ

君が今つぶやく言葉
そのありふれた響きで
嬉しくなって 悲しくなって
「生きてる」って気持ちになんだ

エンディングへ続く道を
なるたけ遠回りして歩こう
木漏れ日の照らす愛しい風景を
深く刻みつけながら

永遠など初めから
僕も信じちゃいないが
二人が奏でる音は
多分なくなりはしないだろう

これからのことだなんて
何一つ分かりはしないけれど
二人がこの時を笑って過ごせたら
それだけで生きてゆける

僕らの歌は流れてる
生きていくどんな場面でも
何よりただ心の奥
その音に気づいたよ
何か一つ終わったとしても
また一つ何かが始まる
そして僕らの物語は続いていくよ
遥か未来にも

心が近づいてくほど
傷つけあうことも増えてしまうけど
君の事をもっと僕は知りたいんだ
いつだってそう思うよ

僕らの歌は流れてる
生きていくどんな場面でも
何よりただ君の声が
その音に気づかせた
立ちすくむ道の途中で
また一つ何かを失くしても
確かにここにあるものは
君と僕が紡ぐ旋律

ずっとずっと続いていくよ
遥か未来にも

僕らの歌は流れてる
生きていくどんな場面でも
何よりただ心の奥
その音に気づいたよ
何か一つ終わったとしても
また一つ何かが始まる
そして僕らの物語は続いていくよ
遥か未来にも

05. 雨上がり

街を濡らしていった通り雨が上がって 大きな虹が空に架かった 悩ましかったしがらみも忘れて 僕らはまるで子供のように笑った	空に架かっていた虹はすぐに消えた いつも通り街は動き出した それでもきっと 君とならぎっと どんな景色にも虹を見つけ出せる	いつの間にか忘れかけた 幾つもの景色だってまた 君と歌うメロディーがほら 思い出させてくれる
ありふれたこの世界に 僕は何度も恋をする この愛しい時間がいつまでも 続くように願うよ	ありふれたこの世界に 僕は何度も恋をする この愛しい時間をいつまでも 繋いでゆきたいよ	ありふれたこの世界に 僕は何度も恋をする この愛しい時間がいつまでも 続くように願うよ この愛しい時間をいつまでも 繋いでゆきたいよ

06. UNIVERSE

何一つ出来ずに また今日一日が 僕を嘲笑ってくように 通り過ぎていく 継ぎはぎの心で 生きていくことに 少し疲れてしまった そんな日常だ	始まりの合図を 聞き逃してしまった そのことに気付かぬまま 置いてかれたんだ 誰かの差し出した 救いの言葉さえも 拒んでスタート地点で ただ蹲っていた	思い出せるものなど 何もないけれど ここで確かに僕は 呼吸をしてるんだ 今日も回ってく世界が 突きつける現実を 塗り替えるのには まだ時間はあるだろうか
今、途切れ途切れの音が 浮かんでは消えてく	また今日も変わらないで 平凡に染まってく	ただ遠く霞んで行く 「今」にしがみついて 二度と離さないように 強く誓ったんだ 僕の未来を さあ 取り戻しに行こうか 踏み出すこの一歩が 僕の世界を今ここに 作っていくって信じながら
ただ遠く霞んで行く 時の果てで僕は 一人きりだったんだって 今更気付いたんだ 深く深く残響が 僕を突き刺していく 飛び散った痛みが 今 空白に溶けてゆく	ただ遠く霞んで行く 時の果てで僕は 何かが変わるのを いつもじっと待ってんだ そして回ってく世界が 突きつける現実を 僕は信じたくなくて また耳を塞いでしまうんだ	

07. Farewell

二人でいた光景が ふと過って胸を焦がす 解かれたこの手にまだ 僅かな熱が燻ってる	僕の世界を包み込んだ その魔法が解けた後で 僕は愛の意味をついに 痛いほど知ってしまった	止め処ない悲しみの中 動けぬ僕はただ泣いてる ほどけ出した物語は 涙にそっと滲んで消える
もっともらしい理由をつけてさ 全てを受け入れたはずなのに なぜか胸が苦しい	いつも僕の涙を拭った 優しい手はもうそこにはない 僕は独りなんだ	溢れる寂寞の中 動けぬ僕を連れ出してよ そう願う心の声は そっとしまつて歩き出さなきゃなあ…
止め処ない悲しみの中 動けぬ僕はただ泣いてる ほどけ出した物語は 涙にそっと滲んで消えてゆく	止め処ない悲しみの中 動けぬ僕を連れ出してよ そう願う心の声は 離れる君に届くはずもなく	

08. 予感

降り積もるタスクで
少しブルーな日は
君の声が聞きたいな
何となくそんな気分なのさ

最近思うんだ
生きるってことはさ
割と面倒なんだけど
それなりに楽しいよ

厳しいようでいて優しい
そんな世界に生まれて
風に吹かれるままに
僕らは歩いていく

ああ ただこの今を愛している
壊れそうなその優しさを
何度だって感じられるよ
明日も未だ知らない歓びが
僕らのことを待っている
そんな予感が僕にはしているのさ

タスクを一掃して
少しハッピーな日も
君の声が聞きたいな
やっぱりそうなんです

難解そうで簡明な
そんな世界に生まれて
時にはふらつきながら
僕らは歩いていく

ああ ただこの今を愛している
壊れそうなその温もりを
何度だって感じられるよ
明日も未だ知らない苦しみ
僕らのことを待っていても
そうさ 僕は怯えはしないよ

ああ ただこの今を愛している
壊れそうなその優しさを
何度だって感じられるよ
明日も未だ知らない歓びが
僕らのことを待っている
そんな予感が僕にはしているのさ

何故かは分からないんだけど
そんな予感が僕にはしているのさ

09. Lie

掴もうとして 壊してしまっ
そんなことを繰り返して
そうして君は人並みの幸福さ
諦めようとしてんだろう

見上げた空は怯える僕らを
突き放すように遠く澄み渡るけど
僕らは二人で 震える身体で
明日を手繰り寄せる

君の心を覆っている
この「嘘」に気づいてほしい
壊れてゆく世界でも
ただ僕が横にいるから
怖くないんだよ

目の前にある全てのことが
重苦しくて息が詰まる
そんなときには僕と一緒にさ
逃げ出そう 遥か遠くまで

失くしたものはあまりに多くて
数えればきつとキリがないけれど
歩き続けることでそれを越える
何かに出会えればいい

君の視界を遮る
「偽り」に気づいてほしい
光のない未来でも
この手で明かりを灯すから
怖くないんだよ

君の心を覆っている
この「嘘」は捨ててしまえばいい
壊れてゆく世界でも
ただ僕が横にいるから

君の視界に広がる
「幸せ」に気付いてよ ねえ
いつだって 迷うときも
それを見つけれられたなら
怖くないんだよ

10. Deepblue

世界の悪戯に惑わされては
勝手な期待をして
何度も同じことを繰り返しては
また悲しくなった

奇跡など起こらない
この空虚ですと
墮ちてゆく 僕はただ
君に触れたいよ

誰の声も届かない世界でも
僕は思い出せるんだ
いつだって君のことを
言葉よりも確かなその光で
僕を目覚めさせて欲しいんだ

いつしか望むことも
忘れかけたんだ 傷つかないように
そうして何もかも感じなくなれば
それはそれで楽なのかも

だけど僕の感情を
そっと撫でて行く
渴望が 本能が
鳴り止まないよ

誰の声も拒んだ世界でも
僕は思い出したんだ
いつだって君のことを
言葉よりも確かなその光で
僕を目覚めさせて欲しいんだ

君のその存在だけが そう
僕を幸福に 不幸にできるんだ
もしそれが絶望に満ちた最後でも
真実に触れたいよ

誰の声も届かない世界でも
僕は思い出せるんだ
いつだって君のことを
言葉よりも確かなその光で
僕を目覚めさせて欲しい
今すぐその痛みで
僕を目覚めさせてよ

11. 巡る

優しい陽だまり 行き交う言の葉 私のことを そっと撫でていく	透き通る景色 繰り返す命 遠い昔から 変わらないまま 此処にある	この場所で生きていく 全て此処にあるから あなたの温もりが巡る 光が差している
重ねた間違いも 全てを抱えたまま 今日を奏で続けていた	ありふれた言葉に 込めた大きな想い その祈りを今、宇宙に そっと響かせる	この場所で生きていく ああ 優しい思い出が巡る 光で満ちていく
この場所で生きていく 全て此処にあるから あなたの温もりが巡る 光が差している		

12. いつか

まだ伝えたいことがあるのに なぜ言葉は見つからないんだろう ただ弱さを隠したりとか 強がる言葉はいつだってすぐ出るくせに	もう心から笑ったりとか 泣いたりすること 出来なくなってた それは誰のせいでもないんだろう 時の中で次第に僕は朽ちていく	きっと僕には君しかいない そんなことに今気が付いたんだ いつか いつか 出来ることなら また君に笑ってほしい
形にならない想いはいつでも 僕の頭の中で彷徨っている そっと その全てを歌に込める	だけれど今でも振り落とせない 強い想いが僕を動かしている そっと その全てを思い出す	遙か遠く響く想いが 君の元へと届くよう願う いつか いつか 永遠を超えて また君に出会えるだろう ほら また夜が明けてゆく
遙か遠く響く想いが 君の元へと届くよう願う いつか いつか 永遠を超えて また君に出会えるだろう ほら また夜が明けてゆく	今も巡る季節の中で 君の欠片を握り締めている いつか いつか 永遠を超えて また君に出会えるだろう ほら また夜が明けてゆく	いつかきっと届くだろう

13. ある夕暮れ

今 終わりを前にして 箱詰めにした思い出を 落ちてゆく陽と後悔が 違う色に染めていた	解り合えたふりをして ぎこちなく笑っていた そうして僕らは寂しさを 空虚な言葉で埋めてただけ	今更君の事を 心から"愛しい"だなんて思った 時間は進み出して 掴んだ小さな手が離れていく
「もっと上手く生きれたらなあ…」 そう何度だって願ったけど 僕らはいつでも不器用に 磨り減らされていく	"君"と向かいあったときに 初めて"自分"に気付けたよ 置き去りにしてた痛みを またちゃんと出会えた	「さよなら」を告げたら 僕らはきつともう戻れない 夕闇が全てを 消し去るように包んでゆくんだ
「さよなら」を告げたら 僕らはきつともう戻れない 夕闇が全てを 消し去るように包んでゆくんだ	「さよなら」を告げたら 僕らはもう別々の道を行く 愛おしい痛みは いつまでも忘れずにいたいよ	「さよなら」を告げるよ 君との日々とその温もりに いつかまた会えたなら その時は笑いあえたらいいな その時は笑いあえたらいいな

14. Memories(Instrumental)